

1. 活動の概要

7月5日(金)、松江市立意東小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。まずは職員が意東小周辺の歴史や奈良の大仏について、パワーポイントを使って説明しました。「意東」という地名が古代の「意宇郡」に由来していること、東出雲町が古代には「余戸里(あまりべのさと)」と呼ばれていたことなどをお話しました。また、江戸時代の意東焼きについても説明しました。自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、驚いたり、感心したりしたようです。また、聖武天皇がなぜ大仏を作ろうと考えたのか、大仏の大きさにはどんな意味があるのかも解説し、大仏パネル体験への導入としました。

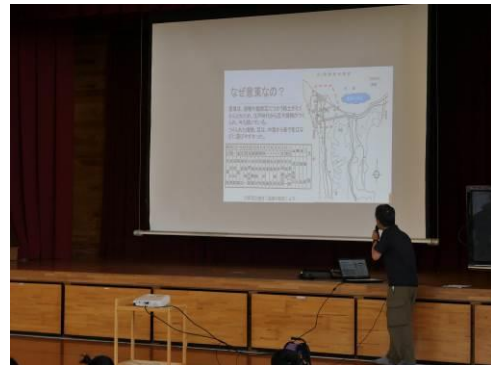
次に、大仏パネル体験を行いました。時間がないなかでも全員で協力して取り組んでいました。完成したパネルを2階から眺めたり、大仏の上に乗って写真を撮ったりして、実際の大きさを体感していました。

2. 活動の様子

1)意東小周辺の歴史について知る



どうして「意東」なの？



意東小の玄関にも意東焼きが！

2)古代体験活動～大仏パネル～



パネルづくりスタート！みんな急げ



見事完成！



心をついに！開眼供養

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・1300年前から島根という地名があつてびっくりした。
- ・大仏の大きさが思っていたよりも大きく、これをつくった人はとても大変だったんだと改めて思った。
- ・学校の会議室や下駄箱にある皿が、本物の意東焼きだということを初めて知った。
- ・大仏パネル体験は難しかったけれど、みんなで協力してつくることができてよかった。

2)担任の先生から…

- ・大仏の大きさを体感することができた。
- ・身近な地域の歴史を知る機会となった。
- ・簡単な資料(プレゼンの内容)があると助かります。

3)古代文化センターから

意東小の歴史についての座学では、「意東」という地名の由来をお話しました。自分たちの住んでいる土地でも、その名前の由来についてはなかなか考える機会はありません。「へえ〜」「そうだったの!？」という声も飛び交い、意外な理由を知って驚いていました。また、意東焼きの歴史についても解説しました。意東小の玄関に意東焼きが飾られていることもあり、真剣にメモを取りながら話を聞いているのが印象的でした。身近な文化財について、関心をもってもらったのではないかと思います。

大仏パネルでは全員が協力し、積極的に作業を行っていました。土台から組み立てる人と頭から組み立てる人に分かれており、無事に完成するか少し心配でしたが、なんとか時間どおりに完成しました。完成したパネルを2階から眺めてその大きさを感じてもらい、さらに聖武太上天皇の気持ちになって大仏の開眼供養も行いました。大仏にはどのような意味が込められていたのか、これほどの大仏を作ろうと思った奈良時代はどのような時代だったのか、考えてもらうきっかけになったのではないのでしょうか。いつか本物の奈良の大仏をみた際に、今回の活動を思い出してもらえれば幸いです。